

清涼飲料水に関連する原料の地政学的リスクと対策

岩下 祐也
伊藤忠商事株式会社

1. 要約

地政学リスクを中心とした各種調達リスクに対し、商社が何を見て、どう対応しているのかについてお話します。

2. 内容

日本の果汁市場は 1992 年のオレンジ果汁輸入自由化をきっかけに市場が段階的に拡大し、2000 年代は野菜飲料市場の急拡大により市場はさらに拡大。しかし、2010 年代に入ってから市場が縮小し続けています。その反面、特に 2010 年代以降は果汁の相場価格は上昇基調かつボラティリティが高い状態が続いており、直近ではブラジル産オレンジの不作によりオレンジショックが発生し、歴史的最高値を記録。先進国の中でも果汁市場が縮小し、円安による輸入コスト高に苦しむ日本は、他先進国との調達競争の中で「買い負け」てしまう局面も増加しています。更に、2022 年から始まったウクライナ・ロシア間の紛争、2023 年から発生しているイスラエル・ハマスの軍事衝突を起因とする中東紛争により物流も大きく乱れ、地政学リスクを踏まえた自社の事業安定継続のための調達戦略を検討しなければならなくなっています。

つまり、原料調達におけるリスクは単に価格だけではなく、地政学リスクを筆頭に、天候、品質、財務、国内・国際物流等、多岐に及んでしまっており、これらを考慮した上で意思決定をしなければならない状況です。しかしながら、ネット上では情報は溢れかえっており、コントロールできないことを懸命に議論しても意味がありません。

今回の講演では、このような環境下の中で世界各国から原料を調達している商社の担当者が、現場においてどのように地政学リスクを中心としたリスクに対応しているのかについてお話させて頂きたいと思います。